

概 況

概 況

Ⅰ 取扱高

(1) 総取扱高

平成6年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場299日、大田市場299日、板橋市場は256日で、前年より北足立市場は増減なし、大田市場は前年に引き続き木曜日開市の結果、31日増加して北足立市場と並んだ。板橋市場は2日減少した。総取扱実績は数量は、部類によって単位が違うので算出できないが、金額は626億9610万円を示した。この金額を前年と比較すると5.7%(33億8579万9千円)の増加となった。また、1日当たりの取扱高についてみると金額は、2億1604万4千円で前年と比較すると0.6%(127万2千円)の減少という実績を示した。

(2) 部類別取扱高

①切花 総取扱数量は6億6336万8千本、金額は429億1245万円となり、前年と比べると数量は10.9%(6509万5千本)、金額は4.0%(16億6937万2千円)の増加となった。

②切葉 総取扱数量は4514万4千枚、金額は12億9634万3千円となり、前年と比べると数量は10.8%(438万6千枚)、金額は10.1%(1億1904万9千円)の増加となった。

③切枝 総取扱数量は1285万4千束、金額は31億1516万7千円となり、前年と比べると数量は3.6%(44万1千束)、金額は9.4%(2億677万4千円)の増加となった。

④鉢花 総取扱数量は1612万2千鉢、金額は55億4709万3千円となり、前年と比べると数量は2.8%(44万鉢)、金額は8.0%(4億1180万8千円)の増加となった。

⑤らん鉢 総取扱数量は151万4千鉢、金額は34億2954万1千円となり、前年と比べると数量は4.0%(5万8千鉢)、金額は2.4%(8009万円)の増加となった。

⑥観葉植物 総取扱数量は659万2千鉢、金額は37億4247万4千円となり、前年と比べると数量は8.9%(53万6千鉢)、金額は7.6%(2億627万4千円)の増加となった。

⑦観賞樹 総取扱数量は207万6千鉢、金額は10億9758万円となり、前年と比べると数量は18.6%(32万5千鉢)、金額は12.6%(1億2302万2千円)の増加となった。

⑧苗物 総取扱数量は89万2千箱、金額は12億2950万2千円となり、前年と比べると数量は43.6%(27万1千箱)、金額は49.5%(4億715万5千円)の増加となった。

⑨その他花き 総取扱数量は15万7千箱、金額は3億2595万1千円となり、前年と比べると数量は9.6%(1万7千箱)の減少、金額は15.9%(4477万6千円)の増加となった。

(3) 市場別取扱高

①北足立市場

総取扱金額は、135億4092万4千円で前年と比べると2.2%(3億631万2千円)の減少となった。類別にみると切花の数量は1億4537万9千本で前年比2.5%(349万4千本)の増加、金額は92億1605万1千円で前年比3.7%(3億4925万円)の減少となった。平均価格は63円。切葉の数量は1075万3千枚で前年比4.3%(44万8千枚)の増加、金額は3億240万1千円で前年比6.0%(1828万6千円)の増加となった。平均価格は30円。切枝の数量は、402万4千束で前年比2.9%(11万9千束)の減少、金額は7億3977万3千円で前年比0.2%(176万5千円)の増加となった。平均価格は184円。鉢花の数量は373万3千鉢で前年比0.4%(1万5千鉢)、金額は13億2224万円で前年比0.9%(1231万2千円)で、共に増加した。平均価格は354円。らん鉢の数量は38万5千鉢で前年比1.3%(5千鉢)の減少、金額は7億9150万3千円で前年比3.6%(2920万9千円)の減少となった。平均価格は2055円。観葉植物の数量は113万2千鉢で前年比1.3%(1万5千鉢)の増加、金額は5億9233万円で前年比2.1%(1263万4千円)の減少となった。平均価格は523円。観賞樹の数量は49万3千鉢で前年比5.0%(2万3千鉢)、金額は2億6168万5千円で前年比1.5%(387万5千円)で、共に増加した。平均価格は530円。苗物の数量は17万9千箱で前年比19.9%(3万箱)、金額は2億4779万6千円で前年比21.8%(4430万3千円)で、共に増加した。平均価格は1384円。その他花きの数量は7万3千箱で前年比37.0%(4万3千箱)の減少、金額は4553万6千円で前年比10.3%(424万1千円)で増加となった。平均価格は628円。

②大田市場

総取扱金額は、378億3793万9千円で前年比5.0%(18億1480万1千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は3億6149万1千本で前年比9.9%(3263万3千本)、金額は241億4466万6千円で前年比2.3%(5億4975万9千円)で、共に増加した。平均価格は67円。切葉の数量は2446万9千枚で前年比8.9%(199万2千枚)、金額は7億3890万5千円で前年比7.8%(5325万3千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は585万8千束で前年比5.1%(28万3千束)、金額は17億3649万7千円で前年比8.4%(1億3518万3千円)で、共に増加した。平均価格は296円。鉢花の数量は1134万3千鉢で前年比1.2%(13万6千鉢)、金額は38億7116万5千円で前年比8.4%(2億9870万6千円)で、共に増加した。平均価格は341円。らん鉢の数量は104万7千鉢で前年比4.2%(4万2千鉢)、金額は23億9734万3千円で前年比2.1%(4947万6千円)で、共に増加した。平均価格は2289円。観葉植物の数量は519万1千鉢で前年比9.5%(44万8千鉢)、金額は30億290万9千円で前年比8.4%(2億3215万3千円)で、共に増加した。平均価格は579円。観賞樹の数量は151万1千鉢で前年比23.6%(28万8千鉢)、金額は7億9037万7千円で前年比16.1%(1億934万円)で、共に増加した。平均価格は523円。苗物の数量は68万6千箱で前年比51.1%(23万2千箱)、金額は9億4928万3千円で前年比59.5%(3億5395万5千円)で、共に増加した。平均価格は1384円。その他花きの数量は7万2千箱で前年比58.0%(2万6千箱)、

金額は2億679万6千円で前年比19.0%(3297万6千円)で、共に増加した。平均価格は2872円。

③板橋市場

総取扱金額は、113億1723万7千円で前年比19.9%(18億7731万円)の増加となった。類別にみると切花の数量は1億5649万9千本で前年比22.7%(2896万8千本)、金額は95億5173万3千円で前年比18.2%(14億6886万4千円)で、共に増加した。平均価格は61円。切葉の数量は992万3千枚で前年比24.4%(194万6千枚)、金額は2億3342万7千円で前年比25.6%(4750万9千円)で、共に増加した。平均価格は24円。切枝の数量は297万2千束で前年比10.3%(27万7千束)、金額は6億3889万7千円で前年比25.7%(1億3081万5千円)で、共に増加した。平均価格は215円。鉢花の数量は104万7千鉢で前年比38.1%(28万9千鉢)、金額は3億5368万8千円で前年比39.9%(1億79万1千円)で、共に増加した。平均価格は338円。らん鉢の数量は8万1千鉢で前年比33.7%(2万1千鉢)、金額は2億4069万5千円で前年比33.1%(5982万3千円)で、共に増加した。平均価格は2960円。観葉植物の数量は26万9千鉢で前年比37.2%(7万3千鉢)、金額は1億4723万5千円で前年比41.6%(432万4千円)で、共に増加した。平均価格は547円。観賞樹の数量は7万1千鉢で前年比22.5%(1万3千鉢)、金額は4551万9千円で前年比27.5%(980万7千円)で、共に増加した。平均価格は639円。苗物の数量は2万7千箱で前年比50.5%(9千箱)、金額は3242万4千円で前年比37.8%(889万7千円)で、共に増加した。平均価格は1206円。その他花きの数量は1万2千箱で前年比4.0%(499箱)の減少、金額は7362万円で前年比11.4%(756万円)の増加となった。平均価格は6071円。

(4)卸売業者別取扱高

①(株)第一花き

総取扱金額は、99億3400万2千円で前年比1.3%(1億3294万8千円)の減少となった。類別にみると、切花の数量は1億708万2千本で前年比4%(412万6千本)の増加、金額は71億8559万9千円で前年比2.4%(1億7649万2千円)で、減少した。平均価格は67円。切葉の数量は755万9千枚で前年比3.1%(23万枚)、金額は2億3628万円で前年比7.7%(1690万1千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は257万束で前年比8.3%(23万1千束)、金額は5億3736万2千円で前年比0.9%(513万1千円)で共に減少となった。平均価格は209円。鉢花の数量は220万1千鉢で前年比1.6%(3万5千鉢)、金額は8億214万7千円で前年比2.4%(1843万3千円)で共に増加した。平均価格は365円。らん鉢の数量は21万1千鉢で前年比6.7%(1万3千鉢)、金額は4億9396万5千円で前年比1.7%(824万1千円)で、共に増加した。平均価格は2344円。観葉植物の数量は63万6千鉢で前年比1.5%(1万鉢)、金額は3億739万9千円で前年比9.4%(3171万9千円)で、共に減少した。平均価格は484円。観賞樹の数量は31万3千鉢で前年比12.2%(3万4千鉢)、金額は1億7278万2千円で前年比3.4%(560万6千円)で、共に増加した。平均価格は553円。苗物の数量は11万8千箱で前年比25.7%(2万4千箱)、金額は1億5775万5

千円で前年比22.1%(2850万5千円)で、共に増加した。平均価格は1336円。その他花きの数量は6万1千箱で前年比40.5%(4万2千箱)の減少、金額は4071万3千円で前年比7.1%(270万8千円)の増加となった。平均価格は666円。

②(株)東京花き

総取扱金額は、36億692万2千円で前年比4.6%(1億7336万4千円)の減少となった。類別にみると切花の数量は3829万7千本で前年比1.6%(63万2千本)、金額は20億3045万2千円で前年比7.8%(1億7275万9千円)で、共に減少した。平均価格は53円。切葉の数量は319万4千枚で前年比7.3%(21万8千枚)、金額は8773万1千円で前年比1.6%(138万5千円)で、共に増加した。平均価格は27円。切枝の数量は145万4千束で前年比8.4%(11万3千束)、金額は2億241万1千円で前年比3.5%(689万7千円)で、共に増加した。平均価格は139円。鉢花の数量は153万2千鉢で前年比1.3%(2万鉢)、金額は5億2009万3千円で前年比1.2%(612万1千円)で、共に減少した。平均価格は339円。らん鉢の数量は17万4千鉢で前年比9.5%(1万8千鉢)、金額は2億9753万8千円で前年比11.2%(3745万1千円)で、共に減少した。平均価格は1705円。観葉植物の数量は49万7千鉢で前年比5.3%(2万5千鉢)、金額は2億8493万1千円で前年比7.2%(1908万5千円)で、共に増加した。平均価格は574円。観賞樹の数量は18万1千鉢で前年比5.6%(1万1千鉢)、金額は8890万3千円で前年比1.9%(173万1千円)で、共に減少した。平均価格は492円。苗物の数量は6万1千箱で前年比10%(6千箱)、金額は9004万1千円で前年比21.3%(1579万9千円)で、共に増加した。平均価格は1477円。その他花きの数量は1万1千箱で前年比7.7%(千箱)の減少、金額は482万3千円で前年比46.6%(153万2千円)の増加となった。平均価格は424円。

③(株)大田花き

総取扱金額は、218億790万2千円で前年比2.5%(5億2913万1千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は2億6676万2千本で前年比8.4%(2070万5千本)、金額は181億812万8千円で前年比1.7%(2億9496万6千円)で、共に増加した。平均価格は68円。切葉の数量は1566万枚で前年比8.7%(125万7千枚)、金額は4億6717万円で前年比8.2%(3557万6千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は381万9千束で前年比0.8%(3万1千束)、金額は10億7390万1千円で前年比9.7%(9480万7千円)で、共に増加した。平均価格は281円。鉢花の数量は216万1千鉢で前年比6.6%(13万3千鉢)、金額は7億9456万9千円で前年比6.1%(4568万8千円)で、共に増加した。平均価格は368円。らん鉢の数量は22万鉢で前年比1.0%(2千鉢)、金額は6億7345万7千円で前年比0.9%(631万9千円)で、共に増加した。平均価格は3067円。観葉植物の数量は77万9千鉢で前年比13%(9万鉢)、金額は3億3239万円で前年比9.2%(2810万2千円)で、共に増加した。平均価格は426円。観賞樹の数量は15万9千鉢で前年比12.5%(1万8千鉢)、金額は1億870万5千円で前年比7.9%(791万2千円)で、共に増加した。平均価格は683円。苗物の数量は11万2千箱で前年比21.8%(2万箱)、金額は1億3693万円で前年比22.9%(2555万2千円)で、共に増加した。平均価格は1227円。その他花きの数量は2万3千箱で前年比25.7%(5千箱)の増加、金額は

1億1265万1千円で前年比8.0%(979万2千円)の減少となった。平均価格は4949円。

④(株)フラワーオークションジャパン

総取扱金額は、160億3003万8千円で前年比8.7%(12億8567万円)の増加となった。類別にみると切花の数量は9473万本で前年比14.4%(1192万8千本)、金額は60億3653万7千円で前年比4.4%(2億5479万3千円)で、共に増加した。平均価格は64円。切葉の数量は880万8千枚で前年比9.1%(73万5千枚)、金額は2億7173万6千円で前年比7.0%(1767万7千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は203万8千束で前年比14.1%(25万2千束)、金額は6億6259万6千円で前年比6.5%(4037万6千円)で、共に増加した。平均価格は325円。鉢花の数量は918万1千鉢で前年より3千鉢増加、金額は30億7659万6千円で前年比9.0%(2億5301万7千円)の増加となった。平均価格は335円。らん鉢の数量は82万8千鉢で前年比5.1%(4万鉢)、金額は17億2388万6千円で前年比2.6%(4315万7千円)、共に増加した。平均価格は2083円。観葉植物の数量は441万1千鉢で前年比8.9%(35万9千鉢)で、金額は26億7051万9千円で前年比8.3%(2億405万1千円)で、共に増加した。平均価格は605円。観賞樹の数量は135万2千鉢で前年比25.0%(27万1千鉢)、金額は6億8167万1千円で前年比17.5%(1億142万8千円)で、共に増加した。平均価格は504円。苗物の数量は57万4千箱で前年比58.5%(21万2千箱)、金額は8億1235万3千円で前年比67.9%(3億2840万3千円)で、共に増加した。平均価格は1414円。その他花きの数量は4万9千箱で前年比79.2%(2万2千箱)、金額は9414万4千円で前年比83.2%(4276万8千円)で、共に増加した。平均価格は1912円。

⑤(株)東日本花き

総取扱金額は、58億6519万6千円で前年比23.9%(11億3288万2千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は7628万5千本で前年比23.8%(1464万8千本)、金額は46億7278万8千円で前年比22.4%(8億5486万4千円)で、共に増加した。平均価格は61円。切葉の数量は454万8千枚で前年比21.1%(79万3千枚)、金額は1億695万円で前年比25.3%(2160万6千円)で、共に増加した。平均価格は24円。切枝の数量は161万2千束で前年比10.9%(15万9千束)、金額は3億3072万5千円で前年比25.8%(6780万5千円)で、共に増加した。平均価格は205円。鉢花の数量は101万4千鉢で前年比35.7%(26万7千鉢)、金額は3億4171万6千円で前年比37.9%(9385万3千円)で、共に増加した。平均価格は337円。らん鉢の数量は6万6千鉢で前年比32.0%(1万6千鉢)、金額は1億5860万2千円で前年比36.4%(4231万円)で、共に増加した。平均価格は2398円。観葉植物の数量は25万8千鉢で前年比32.2%(6万3千鉢)、金額は1億4197万4千円で前年比36.9%(3824万3千円)で、共に増加した。平均価格は549円。観賞樹の数量は6万8千鉢で前年比16.9%(1万鉢)、金額は4341万2千円で前年比21.9%(780万4千円)で、共に増加した。平均価格は639円。苗物の数量は2万6千箱で前年比46.4%(8千箱)、金額は3138万4千円で前年比35.0%(814万3千円)で、共に増加した。平均価格は1205円。その他花きの数量は5千箱で前年比17.6%(1千箱)、金額は3764万6千円で前年比4.4%(174万7千円)で、共に減少した。平均価

格は6848円。

⑥(株)板橋花き

総取扱金額は、54億5204万2千円で前年比15.8%(7億4442万8千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は8021万4千本で前年比21.7%(1432万本)、金額は48億7894万5千円で前年比14.4%(6億1400万円)で、共に増加した。平均価格は61円。切葉の数量は537万5千枚で前年比27.3%(115万3千枚)、金額は1億2647万7千円で前年比25.8%(2590万3千円)で、共に増加した。平均価格は24円。切枝の数量は136万束で前年比9.5%(11万8千束)、金額は3億817万2千円で前年比25.7%(6301万円)で、共に増加した。平均価格は227円。鉢花の数量は3万2千鉢で前年比223.2%(2万2千鉢)、金額は1197万3千円で前年比137.8%(693万8千円)で、共に増加した。平均価格は372円。らん鉢の数量は1万5千鉢で前年比41.8%(4千鉢)、金額は8209万3千円で前年比27.1%(1751万3千円)で、共に増加した。平均価格は5409円。観葉植物の数量は1万1千鉢で前年比2099.2%(1万鉢)の増加、金額は526万1千円で前年比1926.5%(500万1千円)で、共に増加した。平均価格は499円。観賞樹の数量は3千鉢で前年比3526.9%(3千鉢)、金額は210万7千円で前年比1935.3%(200万3千円)で、共に増加した。平均価格は625円。苗物の数量は1千箱で前年比1097.1%(1千箱)、金額は104万円で前年比263.3%(75万4千円)で、共に増加した。平均価格は1241円。その他花きの数量は7千箱で前年比11.3%(1千箱)、金額は3597万4千円で前年比34.9%(930万7千円)で、共に増加した。平均価格は5426円。

2 月別市況

1月

「切花」

例年この時期は、年間を通じて入荷が最も少ない時期で、市況も前月の大需要期の直後ということから一服感となるケースが多い。本年は、天候不順により入荷が遅れぎみで、菊類はそれほど影響がないものの、洋花類は一週間程度の遅れで、特にカーネーションは1カ月程度の遅れとなった。市況は、特別な需要がないため全体的に低調の動きとなった。品目別にみると、菊類は入荷が少なめながら中値で推移し、カーネーションは業務需要が少ないことから弱含みの展開となり、チューリップは入荷量・価格とも安定した動きとなった。

「鉢物」

入荷量はこの時期としては潤沢だが、市況は前月の大需要期の直後ということもあり、全体的に弱含みの展開となった。品目別にみると、ポトスはヘゴ鉢は安定していたものの、吊りは苦戦し、シンビジュームは入荷が徐々に減少し、良品物のみが堅調で、プリムラ類は全体的に荷動きは順調だったが、下旬から相場は下落した。

2月

「切花」

天候不順の影響から前月につづき入荷は遅れぎみで、持続的な不

況感に加え、数年ぶりの大雪等が消費の伸び悩みに拍車をかけ、品目によってバラツキはあるものの、市況は全体的に弱含みの展開となった。また、バレンタイン、節句等の特別需要はあるものの、小売店の動きが本格的ではなく、業務需要以外の商材は苦戦を強いられた。品目別にみると、菊類は白菊が品薄高ながら色物の入荷が増加し中値中心の動きとなった。カーネーションは入荷が安定し、業務需要を中心に安定した動きとなった。チューリップは品質は今一つであったが、バレンタイン需要等により好調な市況となった。

【鉢物】

入荷はこの時期としては比較的安定していたものの、市況は前月に引き続き弱含みの動きとなった。鉢花は同一品種の集中入荷によって中旬頃から苦戦し、観葉植物は徐々に上向き、ラン類は小鉢を中心に人気を集めた。品目別にみると、ポトスは吊り、ヘゴ鉢とも堅調だったものの、コチョウランは寄せ、単品とも苦戦し、ゼラニウムも前半は安定していたが、後半に入って苦戦となった。

3月

【切花】

天候不順により遅れぎみだった入荷は3月に入ると順調になり、前年同月をやや上回る入荷となった。1月・2月は特別な需要がないことから弱含みの相場となったが、3月は彼岸、卒園、卒業式等、花の需要がピークとなり、相場は全体的に堅調な動きとなった。しかし、景気低迷が依然として根強く、前年同月に比べると安値となっている。品目別にみると、主要品目である輪菊・小菊は前年同月比10%程度の安値で、カーネーションは彼岸、卒業式需要等により強含みの展開で、ストックは高値気配の活発な取引となり、フリージアは彼岸に向けて入荷増になったものの保合となった。

【鉢物】

総じて入荷は順調で、昨年同月比10%の増となった。市況は、卒業式需要等により草花類を中心とした動きで、本年は気温の上昇が遅れたため小売需要の動きが鈍く、全体的に弱含みの展開となった。品目別にみると、ポトスは彼岸を境に大鉢から小鉢へと移行し、価格は昨年並となった。コチョウランは需要期ではないため、品質により引き合いが極端となった。サイネリアは前半、中・大輪系中心の動きで後半に入り品薄高となった。

4月

【切花】

昨年は、主品目の菊、バラ、カーネーションの入荷増により、初旬から中旬にかけて価格は急落し、下旬から「母の日」「節句」を控え価格の回復を期待したものの軟調の展開となった。本年も入荷は総じて潤沢で、価格は全体的に安値の動きとなった。しかし、主力品目である菊類の生産が平準化しつつあるため、極端な落ち込みはなく、安定した動きとなっている。品目別にみると、輪菊は色物はやや品薄高で、白は潤沢のため安値となった。カーネーションは前半は需要が少なく軟調市況となったが、後半に入ると「母の日」需要等により堅調となった。アルストロメリアは、需要に対し入荷

が多めのため軟調市況となった。

【鉢物】

3月の低温で、花苗等出荷が遅れぎみのものもあったが、入荷量は総じて潤沢で、相場は中旬まで活況となった。その後、25日まで中弛みがあったものの、下旬から「ゴールデンウィーク」「母の日」需要等が重なって再び好況となった。品目別にみると、ポトス・コチョウランは堅調で、あじさいは前半苦戦したが、後半に入ると安定市況となった。

5月

【切花】

総じて入荷は潤沢で、前年同月比約9%の入荷増となった。市況は入荷増と景気低迷の影響で弱含みの展開となった。特に、冠婚葬祭等は派手さがなくなる傾向にあり、小売店の売れ行きが鈍く、上旬は「母の日」需要等により堅調に推移したものの、中旬以降は弱含みの展開となり、平均価格は59円と前月に引き続き安値となっている。品目別にみると、輪菊は色物は品薄高となったが、白物は軟調であった。カーネーション、スターチス類は、上旬の「母の日」需要で堅調であったが、中旬以降は軟調市況となった。

【鉢物】

入荷は総じて潤沢で、前年同月比約9%の増となった。市況は、全体的に安定した展開で、上旬は「母の日」需要で堅調な相場となったが、中旬以降は花苗・花鉢が保合いとなり、洋蘭類は弱含みの展開となった。品目別にみると、ポトスの吊り鉢は堅調となったが、ヘゴ鉢は軟調となり、コチョウランは、上旬は単鉢が強含みの動きとなったが、中旬以降は弱含みの展開となった。

6月

【切花】

総じて入荷は順調で、前年同月比6.2%の入荷増となった。特に切花の主力品目である菊類は、7月の盆出荷物が前進開花のため入荷増となり弱含みの展開となった。相場は、入荷増と持続する景気低迷の影響で全体的に活気がなく、平均価格は前月に引き続き安値安定となった。品目別にみると切花の主力品目である菊類が、前進開花による入荷増のため安値の動きとなり、カーネーションは、上旬は堅調な動きとなったものの、後半に入ると軟調市況となった。トルコキキョウは、暖地の2番切と各産地の1番切のピークが重なり、大幅な入荷増のため価格は低迷となった。

【鉢物】

総じて入荷は順調で、前年同月比7.8%の入荷増となった。市況は全般的に堅調の動きとなったが、梅雨入りしたものの、後半は暗れた暑い日が続いたため鉢花は苦戦を強いられた。品目別にみると、ポトスは中旬までは安定した相場展開となったが、後半に入ると軟調の動きとなり、コチョウランは安定した相場だったが、一時的に品薄状態の場合もあり後半は引き合いが強くなった。

7月

「切花」

この時期は、暖地産と高冷地産の入荷が重なる時期でもあり、入荷量は総じて潤沢で昨年同期比11.1%の増となった。品質的には、猛暑の影響から小菊、スプレー菊等に高温障害がでており不良品が目立った。一方、相場は景気低迷の影響から依然として消費の伸びが鈍く、平均価格は前月に続き安値となったが、盆需要の関係から中旬から菊類を中心に品薄高の品目がみられた。品目別にみると、輪菊、小菊は、前半は入荷増のため低調な動きであったが、後半に入ると盆需要の関係から品薄高となり、特に白菊は高騰した。カーネーションは、入荷が潤沢で引き合いが弱く軟調市況となった。

「鉢物」

入荷量は比較的安定し、前年同月比2.5%の増となった。また、前月からのお中元需要が持続している関係から洋蘭類が品薄高となったが、相場は全体的には前月並の動きとなった。品目別にみると、ポトスは弱保合で維持し、コチョウランは、中旬まではお中元需要により高値となったが下旬にかけて軟調となった。ペゴニア類、インパチェンスは、高温のため品質が悪く、軟調市況となった。日々草は暑さに強い花で、相場も堅調となった。

8月

「切花」

入荷量は前年同月比3.6%増となったものの、切花の主力品目の一部に品不足が目立ち高値相場となり、4月以来安値となっていた平均価格は、前月比約1.9%高となった。特に盆需要の関係から7月下旬から品薄高となった輪菊は、8月にはいっても品薄高が続いた。しかし、高温による異常気象のため奇形、害虫、しみ等の発生が多くみられ、品質的には良品物が少なかった。品目別にみると、輪菊、小菊は盆需要と絶対量不足から高値で推移し、カーネーションは前進きみで、需要期を除き軟調市況となった。トルコキキョウは前進開花による入荷増により弱保合となり、品質の低下が著しかった。

「鉢物」

入荷量は前年同月比約1.0%減となった。相場も時期的なこともあり、全体的に活気がなく、平均価格は昨年並(2%高)となった。しかし、洋蘭類は高温による開花量の遅れから、前月につづき品薄高となった。品目別にみると、ポトスは高温により弱保合となり、デンファレは、上位等級の奇鉢は堅調の動きとなったが、単鉢は軟調となった。ハイビスカスは、前半は保合市況だったが、後半に入ると品質的にも劣悪のものが目立ち、軟調市況となった。

9月

「切花」

取扱数量は、前半は彼岸需要の関係から品不足きみの場面もあったが、後半に入ると遅れていた産地からの荷が集中し、前月比24.1%増で、前年同月比8.0%増となった。しかし、猛暑の影響がまだ残り、奇形、シミ等が多くみられるなど良品物が少なかった。

平均価格は前月を若干上回ったが、前年比2.8%の減であった。4月以来低調であった相場は、8月に入って品不足により回復した。9月に入っても彼岸需要の関係から上旬から中旬にかけては、堅調に推移したが、下旬からは供給過剰から軟調の市況であった。品目別に見ると、主力品目である菊類は、前半は高値の動きとなったが、後半は供給過剰から安値となった。カーネーションは、全体的に業務需要中心の動きとなり、中値安定の市況となった。

「鉢物」

取扱数量は、7月・8月の猛暑に加え渇水の影響等から、前月比63.6%と大幅増であるが、前年同月比2.3%の減となった。相場は低迷する景気の影響等から活気がなく、平均価格は前年同月比とはほぼ同じで、弱保合で推移した。品目別に見ると、ポトスは大鉢はやや苦戦したものの、小鉢は堅調で、コチョウランは単鉢、奇鉢とも品薄高となった。シャコバサボテンは弱保合で推移した。

10月

「切花」

取扱数量は、前月比22.3%減、前年比7.0%増であった。平均価格は、前月比4.3%高、前年比5.3%安となった。前年同月は、天候不順等により品不足となり高値で推移したが、本年も全般的に品薄きみで、相場はやや高めの動きとなった。また、猛暑の長期化により9月までは品質の低下が著しかったが、10月に入って夜温の低下に伴い、バラ類を中心に良品物が多く出回るようになった。品目別にみると、輪菊は品薄から高値の動きとなり、カーネーションは、低調で推移し、洋ラン類ではカトレアが品不足から高騰した。

「鉢物」

取扱数量は、前月比13.2%増、前年比4.9%減であった。平均価格は、前月比7.7%高、前年比10.5%高となった。猛暑と水不足の影響から、全般的に出荷が遅れきみで、品質的にも良品物が少なかった。品目別にみると、ポトスは安値安定の動きとなり、デンファレは新品種は好調で他は保合となった。シクラメンは前半やや低迷したが、後半に入って持ち直し、シャコバサボテンは、中旬までは弱含みで推移したが、下旬にかけて品薄感から強含みの動きとなった。

11月

「切花」

取扱数量は、前月比7.5%減、前年比5.5%増であった。平均価格は、前月比5.6%安、前年比5.6%安となった。前年は、冷夏と長雨の影響から9月～10月にかけて品薄高となり、これが11月まで影響したが、本年は前年ほどではないが前進開花の影響で絶対量が少なめで、特に洋花類の不足が目立った。価格は、前月が品薄高となったが、11月に入るとやや安定した動きとなった。主力品目別にみると、輪菊は暖地(愛知・福岡)の出荷ピークが重なり、弱保合となり、小菊は、品質は悪かったものの安定した相場となった。カーネーションは、業務需要が多かったものの、下位等

級が多く単価的には低めとなった。

〔鉢物〕

取扱数量は、前月比15.4%増、前年比5.6%減であった。平均価格は、前月比28.7%高、前年比15.7%高と11月に入って高騰ぎみに推移した。猛暑と水不足の影響から、全般的に出荷が2～3週間遅れぎみで、品質的にも良品物が少ない。品目別にみると、ポトスは安値安定の動きとなり、シクラメン・ポインセチアは引き合いが強くなり高値で推移し、シンビジュームは品種によって人気がまちまちとなった。

12月

〔切花〕

取扱数量は、前月比39.4%増、前年比11.6%増であった。平均価格は、前月比7.4%高、前年比9.9%安となった。今月は、お歳暮・クリスマス等催事が重なる需要期だが、長引く景気低迷の影響から全体的に活況とはいえず、特にクリスマス期の引き合いは、天皇誕生日と重なったこともあり低調となった。主力品目別にみると、輪菊は前進開花のため後半品薄高となり、小菊は色のバランスが悪く、低調市況となった。カーネーションは、全体的に堅調な動きとなり、チューリップは、前半やや苦戦した。水仙は集中出荷となり価格は低迷した。

〔鉢物〕

取扱数量は、前月比7.4%増、前年比13.7%増であった。平均価格は、前月比35.7%高、前年比2.7%高となり、11月に入って高騰ぎみに推移した市況は20日頃まで持続した。また、迎春用の商品も20日過ぎから活発な取引となった。品目別にみると、ポトスは需要がなく軟調となり、シンビジュームは下位等級は安定していたが、新品種及び上位等級の動きが思わしくなかった。シクラメンは、上旬は安定した動きであったが、中旬から下旬にかけて低迷した。